

高等部 数学科 学習指導案

日 時：令和4年9月16日（金）

10：40～11：30

場 所：本館2階 集会室

対 象：Dグループ 3名

授業者：峰藤 暁志

- 1 題材名 『お金の達人』で求める値段や量に応じて立式や計算をし、基準量の▲割（%）引や▲割（%）増の値段や量を求めて、お得な買い物計画を立てよう

2 題材設定の立場

(1) 題材について

生徒観	<p>本グループには、3年生2名、1年生1名が在籍している。どのような内容の活動でも、自分から取り組んだり、間違えた時にやり直したりする姿が見られる。また、友だちと対話しながらの学習では、知識及び技能の習得が早く、計算の仕方などを理解すると、その仕方を用いて課題に取り組むが、それらを日常生活で活用することが難しい様子が見られる。</p>
系統観	<p>本グループは、高等部1段階の変化と関係の内容を学習するグループである。</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph LR A[小数の加法・減法] --> B[小数の乗法] B --> C[百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めること] C --> D[比例、反比例] </pre> </div> <p>これまでの学習では、上記のように小数の加法・減法や小数の乗法の学習に取り組み、時折、計算を間違えることはあるが、計算の仕方を理解して課題に取り組むことができている。そこで、本題材では、習得済みの小数の加法や減法、乗法の計算を応用できるようにするとともに、その計算過程に割合（歩合）の量のイメージやその変化の仕方を結びつけるようにする。そうすることで基準量の▲割（%）引（増）の値段や量を計算して求め、安い方を選んだり、同じ金額でもより多くの量を購入したりすることができるようになってほしい。</p>
指導観	<p>本題材では、基準量の▲割（%）引（増）の値段や量を計算して求めることができるように、立式・計算する時に、▲割（%）の量のイメージやその変化についての理解を伴いながら学習を進めることができるようにする。その際、帯グラフに▲割（%）の範囲まで色を塗ったり、教具を操作したりして基準量と求める量の関係を視覚的に確認するようにする。また、計算の途中に自分で間違いに気づくことができるように、基準量に対する量を手がかりにしながら、答えとなる数値を友だちと予想した上で問題を解くようにする。題材を展開するにあたっては、自分で思考・判断し、知識及び技能を段階的に統合・活用することができるように、その基となる基準量の▲割（%）の量を確認し、立式して計算する学習から始める。そこから▲割（%）引や▲割（%）増の値段や量を求める課題を段階的に配列することで、基準量に対する求める量やその変化の仕方に応じて立式・計算し、目的に合った商品を選択できるようにする。</p>
教材観	<p>本題材では、よりよい買い物計画を立てるために、複数の店舗の広告に掲載してある商品から、目的に応じた商品を選ぶ仕組みで行う。買い物では、商品の値段や量について、割（%）引や割（%）増の双方を設定できることから、基準量の▲割（%）の量のイメージの理解やその量の求め方の習得とその活用の状況に応じて、量が同じでも値段が異なる商品を選ぶ、値段が同じでも量が異なる状況で商品を選ぶという課題を設定することができる。店舗の広告から購入する商品を選択し、買い物計画を立てるといった生活場面に近い設定で学習を進めることで、本題材でできるようになったことを家庭生活や将来の社会生活でも生かすことができるようになってほしい。</p>

(2) 生徒の実態と指導の方向

生徒の実態	
P	<p>【一般的な実態】 CA : 18</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を教師や友だちに伝えたり、教師や友だちの話に対して尋ねたりする。 <p>【指導方法に関わる実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が計算の仕方の手本を示しながら説明すると、その仕方で計算をすることができる。 <p><学びに向かう力・人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと話し合いながら課題に取り組むことができる。 ・自分が回答した内容に誤りがあった時、自分からやり直す。 ・既習した学習内容を振り返りながら課題に取り組む。 <p>【本題材に関する実態】</p> <p><知識及び技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・二位数までの整数と小数の加法と減法の計算ができる。 ・小数同士の加法と減法の計算ができる。 ・整数と小数、小数と整数の乗法では、筆算などで計算し、正しい答えを求めることができる。 ・$120 + (120 \times 0.3) =$などの括弧のついた計算では、括弧の中から筆算で計算し、その後、括弧の整数との計算を筆算で行い、正しい答えを求めることができる。 ・490の2割を問うと「240」と答える。 ・250の8割を問うと「31」と答える。 ・4割の意味を説明する時、円を描き、その中に10と書いた後、円の$\frac{2}{3}$程度の範囲を線で囲み4%と書き「10を数字として全体から4を割る」と答える。 ・5%引の意味を説明する時、円を描き、「全体の5%と引くということは、5を引く」と答える。 ・10%増の意味を説明する時、「1485」と書き、「この数字をお金と訳してそこから割る10%をすること」と答える。 ・帯状の図の6割の量まで色を塗る時、6割辺りに線を引き、6割程度の範囲に色を塗る。 <p><思考力・判断力・表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの店の広告に記載してある値段や割引率の異なる2つの商品から、安い商品を選ぶ時、支払う金額が少ない方を選ぶ。
	<p>【指導の方向】</p> <p>整数と小数の加法や減法、乗法に加え、括弧がついた計算で正しい答えを求めることができているが、割合の意味やその量のイメージと、それらを伴う計算の意味についての理解ができていないと考えられる。そこで、本題材では、割合の量のイメージを理解し、立てた計算式から求めた答えの意味や計算の過程での量の変化についての理解を伴いながら計算できるように、求める答えの量や数値を友だちと予想してから答えを求めるように学習を進める。その際、量のイメージやその変化を視覚的に捉えることができるように、帯グラフの▲割(%)の範囲まで色を塗ったり、同様の範囲が確認できる教具を操作したりすることからはじめ、段階的に手がかりを減らすようにする。また、習得した▲割(%)の量のイメージを基に、基準量から増えるのか、減るのかという判断ができるように、「引」や「増」などのキーワードに目を向けるための間接的な支援を行っていく。量が同じでも値段が異なる、値段が同じでも量が異なるという状況の中で、より安く買ったり、より多くの量を得たりすることができる商品を選ぶことができるようになる。現在及び将来の生活において、より少ない出費で生活に必要な買い物をするようになるだろう。</p>
R	<p>【一般的な実態】 CA : 18</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師や友だちの様子を見て、自分からアドバイスをしたり、手伝いをしたりする。 <p>【指導方法に関わる実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算や作図などの仕方を教師が手本を示して説明すると、手本通りの仕方で課題に取り組むことができる。 <p><学びに向かう力・人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を提示すると、課題を受け入れ最後まで取り組む。 ・友だちと話し合いながら課題に取り組むことができる。 ・自分が回答した内容について誤りがあった時、自分からやり直す。 ・既習した学習内容を振り返りながら課題に取り組む。

<p>【本題材に関する実態】</p> <p><知識及び技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・二位数までの整数と小数の加法と減法の計算ができる。 ・小数同士の加法と減法の計算ができる。 ・$200 \times (1 - 0.7) =$ のなどの括弧のついた計算では、括弧の中から計算し、その後、括弧の整数との計算を筆算で行い、正しい答えを求めることができる。 ・490の2割を問うと「90」と答える。 ・250の8割を問うと「210」と答える。 ・100の7割を問うと「70」と答える。 ・帯状の図の5割の量まで色を塗るとき、5割辺りに線を引き、5割程度の範囲に色を塗る。 ・4割の意味を説明するとき「元の値段が10割でそれから4割を抜いた値段」と答える。 <p><思考力・判断力・表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの店の広告に記載してある値段や割引率の異なる2つの商品から、安い商品を選ぶ時、金額が高い方を選ぶ。 ・5%引の意味を説明する時、「元の値段の5%は払わなくてもいい」と答える。 ・10%増の意味を説明する時、「元の値段が100%と考えて、その1/10です」と答える。 	
<p>【指導の方向】</p> <p>整数と小数の加法、減法、乗法や括弧がついた計算の仕方は理解し、計算して答えを求めることができるが、割合や量のイメージとその計算のつながりの理解が十分ではないと考えられる。そこで、本題材では、割合を用いた量や量の増減のイメージを理解し、そのイメージをもって計算することができるように、基準となる量の▲割(%)や基準量の▲割(%)引(増)の量や値段の求め方の学習からはじめる。そのために、基準量の▲割(%)引(増)を求める際、計算する前に答えを友だちと予想し、求めた答えと予想した量や数値を比較することで、自分の計算が正しいか判断する活動を設定する。また、量やその増減のイメージをもって、立式・計算することができるように、求めた答えが、予想したものと一致しているか見直すようにする。既習した内容を振り返りながら課題に取り組むことができることから、割増の量や値段を求める時に、その求め方に気づき、既習した内容を応用して計算できるように、「引」「増」それぞれのキーワードに注目するための間接的な支援を行う。そうすることで、日常生活において、量が同じでも値段が異なる、値段が同じでも量が異なるという状況の中で、より安く買ったり、より多くの量を得たりすることができる商品を選ぶことができるようになり、より少ない出費で生活に必要な買い物をすることができるようになるだろう。</p>	

3 題材目標 ※「知識及び技能」を「知」、「思考力・判断力・表現力等」を「思」で示している

題材目標		学習指導要領の扱う内容	
P	知	<p>『お金の達人』で、基準量の▲割(%)引(増)の値段や量を求める時、▲割(%)の量のイメージと基準量の増減に応じた計算式がわかり、割一ポッターを基準量の▲割(%)引(増)の位置まで操作したり、基準量－(基準量×0.▲)もしくは基準量×(1－0.▲)、基準量＋(基準量×0.▲)もしくは、基準量×(1＋0.▲)で立式して計算し、正しい答えを記入したりする</p>	<p>高等部 1段階C【変化と関係】</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>ウ(ア) ⑦ある二つの数量関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。</p> <p>ウ(ア) ⑧百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めること。</p>
	思	<p>『お金の達人』で、複数の商品の定価や元の量の▲割(%)引(増)の値段や量を計算して求める時、基準量の▲割(▲%)の量について考え、量の増減に応じて計算の仕方を判断し、基準量－(基準量×0.▲)もしくは定価×(1－0.▲)、基準量＋(基準量×0.▲)もしくは、基準量×(1＋0.▲)で立式して計算し、目的に沿った商品を選び、買い物計画表に記入する</p>	<p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <p>ウ(イ) ⑦日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。</p>
	学	<p>数量について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしている</p>	<p>【学びに向かう力・人間性等】</p> <p>数量について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養</p>

			う。
R	知	『お金の達人』で、基準量の▲割(%)引(増)の値段や量を求める時、▲割(%)の量のイメージと基準量の増減に応じた計算式とのつながりがわかり、割一ポッターを基準量の▲割(%)の位置まで操作したり、基準量－(基準量×0.▲)もしくは基準量×(1－0.▲)、基準量＋(基準量×0.▲)もしくは、基準量×(1＋0.▲)で立式したりして計算し、正しい答えを記入する	高等部 1段階C【変化と関係】 【知識及び技能】 ウ(ア) ⑦ある二つの数量関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。 ウ(ア) ⑧百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めること。
	思	『お金の達人』で、複数の商品の定価や元の量の▲割(%)引(増)の値段や量を計算して求める時、基準量の▲割(▲%)の量について考え、量の増減に応じて計算の仕方を判断し、基準量－(基準量×0.▲)もしくは定価×(1－0.▲)、基準量＋(基準量×0.▲)もしくは、基準量×(1＋0.▲)で立式し、計算して目的に沿った商品を選び、買い物計画表に記入する	【思考力・判断力・表現力等】 ウ(イ) ⑦日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。
	学	数量について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしている	【学びに向かう力・人間性等】 数量について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

4 題材計画(全8時間) ※資料末尾にA3別紙で記載

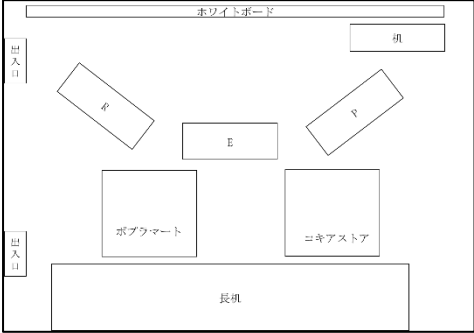
5 本時案(全8時間中の4時間目)

(1) 題目 『お金の達人』で、定価の▲割(%)引の値段を立式して計算しお得な商品を選ぼう

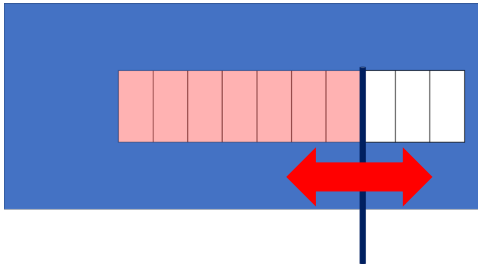

(2) 本時のめあてと評価規準

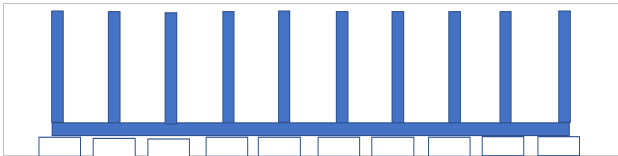
		観点別の本時のめあて	評価規準
P	知		
	思	『お金の達人』で、2つの商品の定価の▲割(▲%)引の値段を計算して求める時、基準量の▲割(▲%)の量について考え、基準量から▲割(▲%)を引いた量であると判断し、基準量－(基準量×0.▲)で立式して計算し、安い方を選ぶ	全5問中、2問目以降の課題に正しく回答する
R	知		
	思	『お金の達人』で、2つの商品の定価の▲割(▲%)引の値段を計算して求める時、基準量の▲割(▲%)の量について考え、基準量から▲割(▲%)を引いた量であると判断し、基準量－(基準量×0.▲)で立式して計算し、安い方を選ぶ	全5問中、2問目以降の課題に正しく回答する
全	学	A3資料「4 題材計画」に記述した主体的な姿が見られるかどうかで題材終了後に評価する	

(3) 場面設定と準備物

場面設定	意図と工夫点
	<p>課題を解決するために話し合いができるように、座席を教室前方に配置した。また、買い物計画を立てる場所と買い物をする場を分けるために教室後方に店舗を配置した。</p>

準備物

	
<p>教具名：割一ポッター</p> <p>意図と用途</p> <p>簡単な操作で基準量の▲割(%)を視覚的に捉えることができるよう、基準量の▲割(▲%)やそれらを引いた量や値段を予想したり、立式や計算の過程で、その意味を確認したりするために使用する。</p>	<p>教具名：広告</p> <p>意図と用途</p> <p>商品の値段や量を比較し、同じ量でも値段が安い商品や同じ値段でもより量が多い商品を選ぶことができるように、発展の場面で2つの店舗のものを同時に提示する。</p>

	<p>教具名：ワケメちゃん</p> <p>意図と用途</p> <p>10(100)等分の量のイメージを視覚的に捉えることができるように、基準となる量の等分した線と対応する枠に数字を記入し、基準となる量のグラフと重ねて使用する。</p>
---	---

(4) 展開

※資料末尾にA3別紙で記載

4 題材計画

		一次	二次				三次			
生徒	時数	1	2	3	4 (本時)	5	6	7	8	
P	知・技	場面	●00、●000などの▲割の量を求める時、			定価の▲割引きの値段を 求めるプリントを解く時、	元の▲割(%)増の量を			
		わかること	基準量を10等分した量 がわかり、	基準量を100等分した量 がわかり、		割合で表記された量と基準量 ×(1-0.▲)の計算の仕方 とのつながりがわかり、	基準量の変化の仕方と計算の 仕方に気づき、			
		できた姿	基準量となる数字を帯グラフの() に記入し 帯グラフを10等分して ▲個分まで色を塗る	ワケメちゃんを帯グラフ に当てて100等分の▲個 分まで色を塗る		基準量×(1-0.▲)の式を 立式し定価の▲割引きの値段 を求める	基準量+(基準量×0.▲)で 立式し▲割増の量を求める			
		配慮的に扱う内容								
	思・判・表	具体的状況	定価の▲割引の 値段を求める時、	定価の▲%の 値段を求める時、	2つの商品の定価の ▲割(%)引の値段を 計算して求める時、	定価の▲割(%)引きの値段 を求めて計算して安い方を選 ぶ時、	元の量の▲割(%)増の量を 計算して安い方を選ぶ時、	定価や元の量の▲割(%)引(増)の 値段や量を計算して求める時、	複数の商品の定価や元の量の ▲割(%)引(増)の	
表画像		基準量を10等分した量 について考え、 等分したうちの▲個分であると判断し、	基準量を100等分した量 について考え、	基準量の▲割(%)の 量について考え、基準 量から▲割(%)を引 いた量であると判断 し、基準量-(基準量 ×0.▲)で立式して計 算し安い商品を選ぶ	基準量の▲割(%)引きの値 段の求め方について考え、 量のイメージのもちやすさや、 計算のしやすさからどちらの計算の 仕方で求めるかを判断し、 元の量+(基準量×0.▲)もしくは 基準量×(1+0.▲)で立 式して計算し、その仕方を 選んだ理由を説明する	基準量の▲割(%)増の量の 求め方について考え、	基準量の▲割(%)の量について 考え、▲割引(%)、▲割(%) 増であるかと▲割(%)、 ▲割(%)引、▲割(%)増に 応じて計算の仕方を判断し、 基準量-(基準量×0.▲)も しくは基準量×(1-0.▲)、 基準量+(基準量×0.▲)も しくは、基準量×(1+0.▲) で立式して計算し、お得な 方(量が同じ時は安い方、 値段が同じ場合は量が多い 方)を選んで買い物計画表 に記入する	基準量の▲割(▲%)の量につ いて考え、量の増減に応じて 計算の仕方を判断し、基準 量-(基準量×0.▲)もしく は定価×(1-0.▲)、基準 量+(基準量×0.▲)もしく は、基準量×(1+0.▲)で 立式して計算し、目的に沿 った商品を選び、買い物計 画表に記入する		
主体的な姿	粘り強さ	<input type="checkbox"/> 計算式を忘れた場合、学習ファイルから既習の内容を振り返る展 発 <input type="checkbox"/> 予想した金額を回答欄に記入する展 発 <input type="checkbox"/> 計算式を選んだ理由を説明する展 発 <input type="checkbox"/> 問いに応じて式を判断し、繰り返し正答する展 発 <input type="checkbox"/> 量のイメージを図や表で表す展 発 <input type="checkbox"/> 既習した内容を応用した式を立式して計算に取り組む展 発 <input type="checkbox"/> 量のイメージから金額を予想する展 発 <input type="checkbox"/> 間違いがないように計算し直し、確かめる展 発 <input type="checkbox"/> 自分が選んだ計算の仕方で継続して課題に取り組む展 発								
		学習調整	<input type="checkbox"/> 量のイメージを基に友だちと話し合ったり、予想し合ったりする展 発 <input type="checkbox"/> 量のイメージを基に正誤判断を行う展 発							
		一次	二次				三次			
生徒	時数	1	2	3	4 (本時)	5	6	7	8	
R	知・技	場面	基準量の▲割(%)を求める時、			定価の▲割(%)引きの値段を 求めるプリントを解く時、				
		わかること	基準量を10等分した 量と基準量×0.▲の計算の仕方 とのつながりが わかり、	基準量を100等分した 量と基準量×0.▲の計算の仕方 とのつながりが わかり、		割合で表記された量と基準量× (1-0.▲)の計算の仕方との つながりがわかり、				
		できた姿	基準量×0.▲の式を立式して 基準量の▲割を求める	基準量の▲%を求める		基準量×(1-0.▲)の式を立式し 定価の▲割引きの値段を 求める				
		配慮的に扱う内容								
	思・判・表	具体的状況	定価の▲割引の 値段を求める時、	定価の▲%引の 値段を求める時、	2つの商品の定価の ▲割(%)引の値段を 計算して求める 時、	定価の▲割(%)引きの値段を 計算して安い方を選ぶ 時、	元の量の▲割(%) 増の量を計算して安 い方を選ぶ時、	定価や元の量の▲割(%)引き(増)の 値段や量を求めて計算して 求める時、	複数の商品の定価や元の量の ▲割(%)引(増)の	
表画像		基準量の▲割の量につ いて考え、基準量から ▲割(を引いた量であ ると判断し、基準量- (基準量×0.▲)で	基準量の▲%の量につ いて考え、基準量から ▲%を引いた量であ ると判断し、基準量-(基 準量×0.▲)で	基準量の▲割(%) の量について考え、 基準量から▲割 (▲%)を引いた量 であると判断し、基 準量-(基準量×0. ▲)で	基準量の▲割(%)の求め方につ いて考え、量のイメージの もちやすさや、 計算のしやすさからどちらの 計算の仕方で求めるかを 判断し、基準量-(基準 量×0.▲)もしくは基準 量×(1-0.▲)で立式して 計算し、 その仕方を 選んだ理由を説明する	基準量から増えるの か減るのか考え、増 減する量と計算の仕 方を判断し、基準 量+(基準量×0.▲) もしくは、基準量× (1+0.▲)で立式 して計算し、	基準量の▲割(%)の量につ いて考え、▲割引(%)、 ▲割(%)増であるかと ▲割(%)、▲割(%)引、 ▲割(%)増に応じて計算 の仕方を判断し、基準 量-(基準量×0.▲)も しくは基準量×(1-0.▲)、 基準量+(基準量×0.▲) もしくは、基準量× (1+0.▲)で立式して 計算し、お得な方(量が 同じ時は安い方、値段が 同じ場合は量が多い方) を選んで買い物計画表 に記入する	基準量の▲割(▲%)の量につ いて考え、量の増減に 応じて計算の仕方を 判断し、基準量-(基 準量×0.▲)もしく は定価×(1-0.▲)、 基準量+(基準量×0.▲) もしくは、基準量× (1+0.▲)で立式し、 計算して目的に沿 った商品を選び、買 い物計画表に記入 する		
主体的な姿	粘り強さ	<input type="checkbox"/> 計算式を忘れた場合、既習の内容を振り返る展 発 <input type="checkbox"/> 予想した金額を回答欄に記入する展 発 <input type="checkbox"/> 量のイメージを図や表で表す展 発 <input type="checkbox"/> 計算式を選んだ理由を説明する展 発 <input type="checkbox"/> 問いに応じて式を判断し、繰り返し正答する展 発 <input type="checkbox"/> 量のイメージから金額を予想する展 発 <input type="checkbox"/> 既習した内容を応用した式を立式して計算に取り組む展 発 <input type="checkbox"/> 間違いがないように計算し直し、確かめる展 発 <input type="checkbox"/> 自分が選んだ計算の仕方で継続して課題に取り組む展 発								
		学習調整	<input type="checkbox"/> 量のイメージを基に友だちと話し合ったり、予想し合ったりする展 発 <input type="checkbox"/> 量のイメージを基に正誤判断を行う展 発							

(4) 展開

学習活動	教師の意図と働きかけ	
	P	R
1. 前時の学習を振り返り、本時の課題を知る。【導】	<p>○前時の学習を振り返り、本時の課題を理解することができるように、前時までに学習したことを尋ね、本時は基準量の▲割(%)引の値段の求め方に取り組むことを知らせる。</p> <p>○基準量の▲割(%)引の値段の求め方の学習をするよさを感じたり、前時までに学習したことを生かす経験をしったりするために、基準量の▲割(%)の値段の求め方を使って、2つの店の広告に記載している商品と値段表示を見て、より安い商品を選択することを知らせ、様子を見る。</p>	
2. 値段表記から立式し計算して、▲割(%)引の値段を求めたり、友だちと▲割(%)引の値段の予想をしったりする。【展】	<p>○基準量の▲割(%)引が基準量から▲割(%)引いた量の残りの量ということのイメージがもてるように、帯グラフを使って値段の予想を立てるよう伝える。その後、予想した値段をどのように求めたか問う。基準量から▲割を引いたなどと答えた場合には、量のイメージと立式が正しいことを帯グラフと割りポッターを使って伝え、基準量の▲割(%)を求める時は、基準量－(基準量×0.▲)であることを説明する。</p> <p>・帯グラフ上で基準量の▲割引を▲割の値段として予想した場合には、正解の金額を提示し、定価から▲割(%)を引いた金額と同じことに気づけるように、帯グラフ、予想金額、正解の金額を比較し、正解の金額が帯グラフのどの部分に対応するかを考えるように伝える。その後、▲割(%)引は基準量から▲割(%)引いた量であることを帯グラフと割りポッターを使って説明する。</p> <p>○基準量から引く量のイメージを確認するために、どれくらいの量を引くのか問い、割りポッターを使って説明することを伝える。基準量から引く量(数字)と同程度の量を割りポッターで示して説明することができた場合には、立式して計算することを伝え、それぞれの計算の過程で求めている量やその意味がわかるように計算の過程に沿って求める量を割りポッターで示し、立式と計算による量の変化を意味づけて認める。</p> <p>・▲割(%)引の値段と、イメージした量が一致していない場合には、求めた▲割(%)引の値段が、量のイメージと一致していないことに気づけるように、表記している▲割(%)引の値段や量と割りポッターで表した量のイメージを見比べよう伝えた後に、一致しているか尋ね、割りポッターを使って、再度イメージした量を表すことを伝える。</p> <p>○量の変化のイメージと計算式のつながりについて理解できるように、基準量の▲割(%)引の値段や量を求める問題を出題して様子を見る。正しく立式して答えを求め、割りポッターを使って量の変化のイメージと計算式のつながりについて説明することができている場合には、基準量の▲割(%)の量や値段は、基準量から▲割(▲%)を引いた量や値段であることと、その量の変化のイメージを割りポッターを使い意味づけて認める。</p> <p>・求めた▲割(%)引の値段や量が、量のイメージと一致していない場合には、求めた▲割(%)引の値段や量が、量のイメージと一致していないことに気づけるように、答えと割りポッターで表した量のイメージを見比べよう伝え、一致しているか尋ね、再度計算するように伝える。</p>	<p>○基準量から引く量のイメージを確認するために、どれくらいの量を引くのか問い、割りポッターを使って説明することを伝える。基準量から引く量(数字)と同程度の量を割りポッターで示して説明することができた場合には、それぞれの計算の過程で求めている量やその意味がわかるように、計算の過程に沿って求める量を割りポッターで示し、立式と計算による量の変化を意味づけて認める。</p> <p>・▲割(%)引の値段や量とイメージした量が一致していない場合には、求めた▲割(%)引の値段や量が、量のイメージと一致していないことに気づけるように、表記している▲割(%)引の値段や量と割りポッターで表した量のイメージを見比べよう伝えた後に、一致しているか尋ね、割りポッターを使って、再度イメージした量を表すことを伝える。</p> <p>○量の変化のイメージと計算式のつながりについて理解できるように、基準量の▲割(%)引の値段や量を求める問題を出題して様子を見る。正しく立式して答えを求め、割りポッターを使って量の変化のイメージと計算式のつながりについて説明することができている場合には、基準量の▲割(%)の量や値段は、基準量から▲割(%)を引いた量や値段であることと、その量の変化のイメージを割りポッターを使い意味づけて認める。</p> <p>・求めた▲割(%)引の値段や量が量のイメージと一致していない場合には、求めた▲割(%)引の値段や量が、量のイメージと一致していないことに気づけるように、答えと割りポッターで表した量のイメージを見比べよう伝え、一致しているか尋ね、再度計算するように伝える。</p> <p>○割合と百分率の関係を理解しているか確認するために、基準量の▲割(%)引の値段や量を求める問題(変化量が同じ問題)を▲割引、▲0%引を交互に出題し様子を見る。▲割引と▲0%引(▲=同じ数字)が同じ変化量であることに気づき、変化した量や値段についての答えのみを正しく記入した場合には、理由を尋ね、▲割引と▲0%引が同じ変化量であることを割りポッターを使って▲割引と▲0%引それぞれの量の変化を視覚的に示し、意味づけて認める。</p> <p>・計算して答えた場合には、▲割引と▲0%引の答えが同じ変化量であることに気づけるように、答えに注目するよう言葉をかけ、答えが同じであることに気づいたら、割りポッターを操作して▲割引と▲0%引それぞれの量の変化を確かめることを伝え、次の問いに取り組むよう伝える。</p>
3. 2つの値段表記から▲割(%)引の値段を求め、より安い商品を選択する。【発】	<p>○基準量の▲割(%)引の値段や量のイメージをもつことができるように、基準量の▲割(%)引の値段や量を問い、基準量の▲割(%)引の値段や量を割りポッターを使ったり、友だちと相談したりして予想を立てることを知らせて様子を見る。割りポッターを操作したり、友だちと相談したりして予想したイメージが基準量の▲割(%)を基準量から引いた値が基準量の▲割(%)引の値段や量になることを意味づけて認める。</p> <p>○学習した内容を生活で活用したり、応用したりするための経験を積んだりすることができるように、基準量－(基準量×0.▲)の式を使って広告の商品の値段表示にある▲割(%)引の表記を見て、▲割(%)引の値段を求め、より安い商品を選ぶことを伝える。</p> <p>○広告の商品と値段表示にある▲割(%)引の表記を見て量のイメージをもち、2つの商品の▲割(%)引の値段を求め、より安い商品を選択できるように、基準量－(基準量×0.▲)で立式して計算すると、▲割(%)引の値段を求めることができることを知らせて様子を見る。安い商品を選択することができた場合には、変化する量に応じて値段を求め、比べるよさがあるように、基準量－(基準量×0.▲)で立式して計算し、比較するとより安く(お得に、おつりや残金が多く)買い物をすることができることを伝えて認める。</p>	
4. 本時の成果を振り返り、次時の学習活動を知る。【終】	<p>○本時の成果を振り返るために、本時で取り組んだ課題から、気づいたことや頑張ったことを発表するように知らせる。</p> <p>○次時への意欲がもてるように、次時の学習活動を知らせて本時を終える。</p>	